



若松小だより

自ら考える子 思いやりのある子 たくましい子

令和 6 年度 7 月号 No.4
令和 6 年 6 月 28 日
府中市立若松小学校
校長 生井 信太郎

様々な成長の形

副校長

4月から始まった新学期ですが、あっという間に7月になりました。もうすぐ夏休みです。新年度を迎えてから3ヶ月の間に、子供たちは様々な成長を見せました。

1年生は4月当初と比べ、できることがたくさん増えました。これまでと生活環境が大きく変わったことかと思いますが、多くの子供たちが朝8時30分までに身の回りの準備を済ませ、先生の話をよく聞き、適切に行動できるようになりました。ひらがなを覚え、読んだり書いたりすることや、たし算やひき算の計算をしっかりと身に付けてきています。

6年生は最高学年として、立派なリーダーになってきました。様々な場面で下級生に対して思いやりのある言葉をかけ、集会ではみんなのお手本になろうと一生懸命取り組む姿が見られました。

子供たちの様子を間近で見ている私たち教員には、1学期間の一人一人の成長がはっきりと感じられます。しかし、実際に当人たちは自分の成長をどれくらい感じることができているのでしょうか。

人間の成長には、「目に見えやすい成長」と「目に見えにくい成長」があると言われていきます。身長や体重、計算力や漢字テストの点数など、数字や量ではかれるものは、「目に見えやすい成長」であると言えます。一方で、考える力や優しさ、頑張る力等、心の成長については、自分ではなかなか気づきにくく、「目に見えにくい成長」であると言えます。私たちは、どうしても「目に見えやすい成長」の結果を求めがちです。なぜなら、自分にとっても周りの人にとっても分かりやすいからです。成績が良くなると、褒められることが多くなったりします。なので、「ひらがなを覚えた」、「漢字を書けるようになった」、「計算が速くなった」、「テストの点数が良くなった」等の「目に見えやすい成長」は実感できても、「思いやりを持って行動した」「粘り強く取り組んだ」等の「目に見えにくい成長」には気付けないことがあると思います。

それでは、どうすれば「目に見えにくい成長」を認識できるようになるのでしょうか。私は、周りの人たちがその人のちょっとした心の成長を見つけ、認め、褒めていくことが大切であると考えています。周りから認めてもらえることで、自分では分からなかった良さや成長に気づくことができます。学校では「いいところ見つけ」に取り組んでいます。様々な場面で友達が頑張っていたり、よいことをしたりしていることに気が付いた時には、積極的に言葉にして伝える活動をしています。自分や友達を評価する際には、いろいろな視点から頑張っていることを褒め、認め、励ますようにしていくのがよいです。そのことが、やる気を高めることにつながります。ご家庭におかれましても、目に見える成長のみで物事を見ていくのではなく、広く、いくつかの視点でトータルにお子様の成長をとらえ、お声掛けをしていただければと思います。

人の成長には様々な形があります。はっきりと表れるものもあれば、内面で着々と育っているものもあるはずです。みんながそれぞれの良さや頑張りを認め、成長する喜びを感じながら過ごしていける学校になっていけばと思っています。

[illegible]